

施策評価シート(平成29年度)

(基本施策の大綱) 5. 市民力・地域力の活性化

(基本施策) (3)共生社会の推進

(評価担当者)

生活文化部長 佐久間 利夫

■基本施策が目指す姿

市民一人ひとりが、互いに人権を尊重し合い、多様性を認め合いながら、ともに暮らしています。

■関連する分野別計画

第3次亀山市男女共同参画基本計画

■成果指標

		単位	現状値		実績値					目標値
					H29	H30	H31	H32	H33	
1	人権啓発イベント参画団体数	団体	21	H28	20					24
2	審議会等における女性の登用率	%	36.1	H28	37.3					40.0
3	ワーク・ライフ・バランスに積極的な取り組みを行う事業所数(累計)	社	—	H28	0					6
4	日本語教室の年間延べ受講者数	人	648	H27	1,051					700

■市民アンケート調査

項目			現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [H32]	市民アンケートの考察
1	人権擁護や人権意識の啓発が進んでいる	重要度	0.83			
		満足度	▲ 0.48			
2	男女が平等に社会参加できる環境が整っている	重要度	0.89			
		満足度	▲ 0.15			
3	外国人住民との交流が活発に行われている	重要度	0.58			
		満足度	▲ 0.72			
4		重要度				
		満足度				
5		重要度				
		満足度				

■総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
B まずまず進んでいる	人権の尊重、男女共同参画については、着実な施策推進が図られており、個別判定においてBとしている。 ワーク・ライフ・バランスについては、新たな取組であった推進週間の実施に着手できたことから、個別判定はBとしている。 多文化共生の推進については、従来実施してきた日本語教室の開催を順調に進めたことから、個別判定はBとしている。 以上から、総合判定をBとした。
反省点・課題	
新たな取り組みであったワーク・ライフ・バランス推進週間については、市民・事業所等への周知を進め、参画する市民・事業所等の増加を図る必要がある。また、週間中のイベント実施等で協力をいただいた各種団体等とは、連携手法等をさらに深めて啓発効果を高めていく必要がある。 人権、男女共同参画、多文化共生においては、既存団体等との連携は深まっているものの、新たな担い手の掘り起こしや連携の拡大には至っておらず、既存活動団体等の負担の増加が、施策の新たな展開、拡大を阻害している可能性がある。 また、事業実施等により担当職員の意識は着実に高まっていくものの、市職員全体の意識啓発のための取り組みは十分とは言えない。	

今後の展開方針

事業等の実施にあたっては、一般市民への広報等とともに、対象者を絞り込んだ効果的な周知活動を展開する。

事業等に参画いただける個人・団体の掘り起こしと、その活動支援について、手法等を検討していく。

関係部局との連携により職員研修等を実施し、市職員全体の意識啓発を図る。

(施策の方向に関する評価)

施策の方向① 人権を尊重し合えるまちづくりの推進						
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】		
B	活動	人権週間期間中、第13回ヒューマンフェスタin亀山を開催し、ケーブルテレビやフェイスブックで広く周知を行った。 教育機関、県などの人権に係る協議会や研修会等に参画し、各種関係機関との連携協力を図った。 法務局との連携により、人権擁護委員を配置し、各種相談体制の充実に努めた。		評価	ヒューマンフェスタに地域や学校、多数の団体が参画し、様々な視点から人権問題を捉えることで、市民の人権意識を向上に繋げた。 法務局並びに人権擁護委員の相談業務や啓発活動により、複雑・多様化する人権問題の解消が進められた。	
		まずまず進んでいる				
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動 成果
	19254	一般事業(共生社会推進事業)		標	2,531 / 2,362	A B
					/	
事業以外の取組	内容				活動	成果

施策の方向② 男女共同参画の推進							
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	三重県内男女共同参画連携映画祭として、本市において、「ペコロスの母に会いに行く」を上映し、多くの市民の参画を得た。 亀山市男女共同参画情報誌を発行するとともに、広報にて男女共同参画の周知啓発を行った。 審議会等における女性の登用率の向上に向け、全庁的に取り組んだ。		評価	映画祭上演に伴い、男女共同参画の啓発のためのアフタートークで熱心な議論が展開され、男女共同参画意識の高揚が図れた。市の政策・方針決定過程の場への助成参画を進めたが目標値には達しなかった。アクティブ亀山やフレンテ三重等の関係団体と連携を図り、ハラスメントやDVなどの防止対策の啓発により男女が心身ともに健やかに安心して暮らせる環境整備を図った。		
		まずまず進んでいる					
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	19251	男女共同参画事業		標	618 / 481	B	B
	3134	女性相談事業		標	2,348 / 2,252	A	A
事業以外の取組	内容					活動	成果

施策の方向③ ワーク・ライフ・バランスの推進							
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	11月11日から11月26日までの16日間をワーク・ライフ・バランス週間として位置づけ、期間中には、講演会の開催や文化体育施設の無料開放を実施した。 同時に、市民や事業所に対して、広報、ホームページ、リーフレット等による啓発活動に取り組んだ。		評価	ワーク・ライフ・バランス週間の設定と各取り組みにより、各事業所における職場環境の整備を促し、個人の意識改革が図れるよう取り組んだ。		
		まずまず進んでいる					
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17101	ワーク・ライフ・バランス推進事業		主	580 / 474	B	B
					/		
事業以外の取組	内容					活動	成果

施策の方向④ 多文化共生の推進							
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	外国人住民が日本で生活する上での日本語を習得するための日本語教室を市民活動団体「はじめのいっぽ」と協働で習熟度別に3クラスに分け年間38回開催し、延べ1,051人が参加した。また、外国人生活支援として市広報の翻訳版(英語、ポルトガル語、やさしい日本語)である「かめやまニュース」を発行した。外国人集住都市会議に参画し、津市での全体会開催に協力した。		評価	日本語教室の参加者からは、大変役に立った、日本語が理解できたなど高評価を得ている。また、やさしい日本語等の「かめやまニュース」を発行することで、必要とされる生活情報の提供を行い外国人住民に対して生活の利便性の向上に寄与した。		
まずまず進んでいる							
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	19290	国際化推進事業		標	5,488 / 5,314	B	B
					/		
事業以外の取組	内容					活動	成果